

CBMOC会員様インタビュー Vol.5

東京・大阪・福岡。3拠点の各地にいらっしゃるお客様が、もっと他のお客様のことを知ることのできる機会をつくりたい！という想いから、今号もCBMOC会員様のインタビューを掲載させていただきます。
今回は、岡山県で事業を営む、株式会社のだ初の代表取締役、野田裕一郎様にインタビューしました。



◆プロフィール

お名前：野田裕一郎 社長歴：5年目
趣味／休日の過ごし方：野球をしています。自分自身はもちろん、子供も野球をしているので、野田裕一郎という人間として「いつか子供と同じチームでプレイヤーとして一緒に野球がしたい」という夢がある限り、今後も野球を続けたいと思いますね。ポジションは学生の時は、ずっとファーストでしたが、最近、ピッチャーもしているんですよ。正直、この歳でするのはしんどいですが、だんだん相手を抑えられるようになってくると、ピッチャーも面白いですね。

◆あなたの願掛けは

ストレス発散の手段として、半紙や面用紙、色紙に筆でその時に思ったことをとにかく書く、ということをしています。また、いい言葉と出会うと、メモをしています。我流の書道なんですよ。特に、いい言葉は会社に飾っておくと、落ち込んだ時等に社員が見て「元気をもらった」って言うってくれるんですよ。これは願掛けというより、儀式に近いのかもしれませんが、嬉しいことも楽しいことも悲しいことも、正直に書くようにしています。



◆これまでの経緯

祖父、父が経営者でしたが、昔は今以上に畜産公害がひどく、家の仕事に対して良い、汚いというイメージを持っていたので、家を継ぐ意思が全くありませんでした。そもそも家の仕事について詳しく知らなかったの、気に止めていないわけではなかったけれど、何をしているかは知らない状態でしたね。

家を継ぎたくないという気持ちが強いあまり、進学することが決まっていた大学へ勝手に電話をかけ、入学を辞退しました。電話を切った後は何も考えていなかったと思います。翌日、先生に呼び出され、母親と3者面談することになり、仕方なく叔父が元プロゴルファーということもあり、勢いで「プロゴルファーになりたいという夢がある！」という嘘をつきました。父親は昔からあまり口出しをしませんでしたが、ただ「挨拶をしろなさい・嘘をつくな(約束を守れ)」の2つだけはよく聞かれました。そんな父親と「3年間でプロになれなかったら帰って会社を継ぐ」という約束をして、家を出ることになりました。

紆余曲折ありましたが、最終的にはプロになれず、「家の仕事を手伝わせてください」と言って会社に入社しました。気づけば、入社してからもう22年が経ちますが、見事に父の作戦にはまりましたね(笑)

会社に入社した頃は、社長の孫で専務の息子である自分は「使えない奴が入ってきたな」と思われていたと思います。会社には仲間と呼べる存在は誰ひとりいませんでした。最初は農場で働かされることになり、正直、嫌だったのですが、今思えば無駄なことではありませんでした。あくまで今思えば、の話ですよ(笑) 父親は農場を知らないまま社長になり、苦労した部分があったと思うので、私を農場に行かせたのだと思います。

今から16年前の27歳の頃、会社にコンサルを入れました。その時、初めて社長である父に呼ばれ、「お前は どう思う？」と私は意見を求められました。初めて父親に仕事の話をしてもらって、嬉しかった思い出です。

◆社員が育ったなあと感じたエピソード

社員が「こういう問題があったんですが、自分はこうしようと思っています。いかがですか？」と自分の意見を言うようになってきた時ですね。

また、月次会議のプロジェクトメンバーから「辛くて大変なこともあったけれど、耐えました」という発言があった時も嬉しかったです。この言葉を言えるのは、きちんと立ち向かったからだと思います。

一時期、すごく落ち込んでいた社員から「でも、結局は開き直るしかないですよ」という発言もありました。

些細な言動で成長を感じ、その1つ1つに喜びを感じています。

◆経営者の仕事を一言で言うと？

「善き仲間をしかわせにすること」
従業員に「この会社に入ってよかった」と言ってもらえるような会社にしていきたいですね。



◆座右の銘

「動けば変わる」「人生有限」
この言葉がすべての基本ベースになっています。
10数年前、当時30歳の頃に鶏卵業界の総会がありました。私はこの業界の中では年齢が若く、発言ができる立場ではありませんでしたが、懇親会の席で「消費を拡大したらどうでしょうか？今までとやり方を変えましょう」と提案しました。すると、他の経営者たちに怒られてしまい、最終的に納得がいかず「自分でやるわ！」とケンカを売ってしまいました。

そこで、「たまご1日1個説は間違っている。毎日2個3個食べても大丈夫だよ」と周りに言い続け、身をもって毎日5個食べても、健康診断で健康体であることを証明しました。その結果、少しずつ自分の周りではたまごの消費が増えました。

また、自転車で日本縦断しながら「たまご消費拡大のPRをする」という宣言もしました。家族や医者に止められ、業界の人から散々陰口も言われましたが「たまご業界人として、野田裕一郎として、どうしてもやり遂げたい」と周りに伝え、自転車で4600キロというたまご消費拡大の旅をやり切りました。

その甲斐があつてか、「たまごニコニコ大作戦」が立ち上がり、業界として盛り上げてくれています。そして、今では若い人たちが物申せるようになり、ヤングミーティングも開催されています。

ここまで盛り上げよう、と狙って行動したわけではないんですよ。やってみたら結果、実際に起きたことでしかありません。とりあえず、動いてみれば何かが変わります。人生は有限なので、まずは動いてみることでいいですね。

◆社員との関係の質を上げるために意識してやっていること

社員に心から感謝をしています。自分自身を器が大きい人間だと思っていません。だからこそ、誕生日に手紙を送ったり、四代目通信という社内報で日頃の感謝の気持ちを伝えるようにしています。しかし、それだけでは足りない、今は挨拶とプラス一言を意識しています。「髪切ったな！」とか「元気か！」とか、そういう一言の積み重ねが大切だと思っています。

10月からオフィスの改装が始まります。社長室はガラス張りにして、もっと社員とコミュニケーションがとりやすいようにしていきたい、と考えています。コミュニケーションをとりやすい雰囲気と場づくりをこれからも実践し続けます。

◆会社概要

社名：株式会社のだ初
代表者名：野田裕一郎
業種：養鶏・畜肉加工、販売・各種飼料の販売
本社所在地：岡山県倉敷市
従業員数：140名
MOC継続年数：3期目



◆経営者になって一番大変だったこと

会社が100周年を迎える時にバトンを受け取りました。経営者になってから、周りが受け取る自分自身の言葉の重みが全然違うと感じました。例えば、「のだ初はこの地域に必要な」といった養鶏場への苦情を受けたことがありました。その際、専務だった頃は社長を出さないように対応し、「帰ってから社長と相談します」と逃げるのが可能でした。それが経営者になると言えません。社長になって同じような状態が起きると、答えを出さなくてはなりません。自分の発する言葉の重みを感じましたね。

◆最近勉強になった本

『経営者には、幸せにするべき5人の人がいる』

去年、ソリューションの視察ツアーに参加した時、お会いさせていただいた、株式会社九州壹組の久保社長の書籍ですね。実際にお話を聞いて、考え方や視野が広がったので、本当にいい出会いでした。



◆担当の向井より一言

出会ってから丸2年となりますが、辛い時、悔しい時、嬉しい時を社長だけでなく幹部の皆様とも一緒に感じながら走ってきた2年間でした。また、私が落ち込んだりすると皆さんでサプライズをしてくださったり。本当に笑顔の絶えない温かい方々ばかりの会社様です。本当に感謝を言えないほど皆さまに救われました。今後とも善き仲間として「日本一しかあわせな会社」を創っていきましょう！いつもありがとうございます！



◆MOC会員様に伝えたいこと

私にとっては、オーナーズクラブはリセットの場ですかね。業種や職種は違うけれど、トップを張っている人間は、修羅場をくぐってきた人ばかりです。加えて、前向きな人たちがばかりだからこそ、「俺ももっと頑張ろう！」と思います。同志とか仲間とか、そんな存在ですね。そういう場が好き！いつも刺激をありがとうございます。

経営理念
善き仲間
善き人財
食り続ける